

令和6年8月7日

## 福岡市保育協会 非常勤職員人権保育研修会1

一般社団法人福岡市保育協会主催「非常勤職員人権保育研修会1」に講師として呼んで頂きお話をさせて頂きました。

今回の研修会は、福岡市の保育園に勤める非常勤職員の保育士の方々を対象とした研修会でした。

研修会は、2部制で

1部(中央区・博多区・東区)75名

2部(南区・城南区・早良区・西区)71名 合わせて146名の保育士の方々が参加されました。

今回の研修会でお話した内容は、

- ①発達障がいとは？
- ②常識とは？
- ③特別支援を園に取り入れる
- ④子どもの意欲を伸ばす大事な視点
- ⑤まとめ

以上の5つです。

研修のはじめに参加された皆さん全員にワークを通して「保育士」としてではなく、「一人の人間」として立ち返って頂き、自分自身の性格や得意なこと苦手なことを見つめ直して頂きました。これは、「保育士」という殻を一旦脱いで、同じ人間として上から目線ではなく子どもたちの立場に立った視点を意識することを目的としました。

そうすることで、「保育士」として指導的で否定的な関わりに無意識に片寄っていた自分に気づき、子どもたちに合わせた肯定的な関わりを増やす方に意識を向けることが出来ます。

しかし、言葉で言うのは簡単ですが、子どもたちの立場に立って同じ目線で冷静に肯定的に関わるためには、何よりも保育士の皆さんの「心身の余裕」が必要不可欠です。

これまで私がお話ししてきた支援者の皆さんのほとんどが、「余裕があれば子どもの立場やペースに合わせることが出来ます。でも余裕がない時は、頭では分かっているけど…」と話されていました。

そこで、次のグループワークでは、それぞれの保育園で「保育士の心身の余裕」を作るための方法やアイデア、実際に行ったケースなどを考え共有し合ってもらいました。子どもの立場に立った支援を継続するためには、子どもも保護者も支援者も孤立させてはいけません。皆で協力して一つずつスモールステップで進めていくことで、一人だけの責任にならず、立場を越えてお互いの「心の余裕」を増やすことが出来ます！

■大人の常識で判断するのではなく子どもの立場に立った視点を持つこと。

■保育士自身の心の余裕を作ること。

以上2つのポイントを意識して焦らず協力して進めていきましょう！

